

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

## 2019年 第35週（8月26日～9月1日）

### 今週のコメント

～RSウイルス感染症～ 咳エチケット、手洗いが重要

### 定点把握感染症

「RSウイルス感染症 前週比91%増」

第35週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は2,485例であり、前週比28.9%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、ヘルパンギーナの順で、定点あたりの報告数はそれぞれ4.01、2.37、1.50、1.45、0.96であった。

感染性胃腸炎は前週比13%増の790例で、南河内6.75、北河内5.96、中河内4.80、大阪市南部3.78、泉州3.70である。

RSウイルス感染症は前週比91%増の467例で、大阪市北部6.00、大阪市東部3.47、大阪市西部3.20であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比46%増の295例で、南河内2.63、北河内2.15、堺市1.84 である。

手足口病は前週比31%増の285例で、南河内3.31、大阪市北部2.62、中河内2.05 であった。

ヘルパンギーナは前週比26%増の189例で、大阪市北部1.54、中河内1.50、北河内1.07 である。

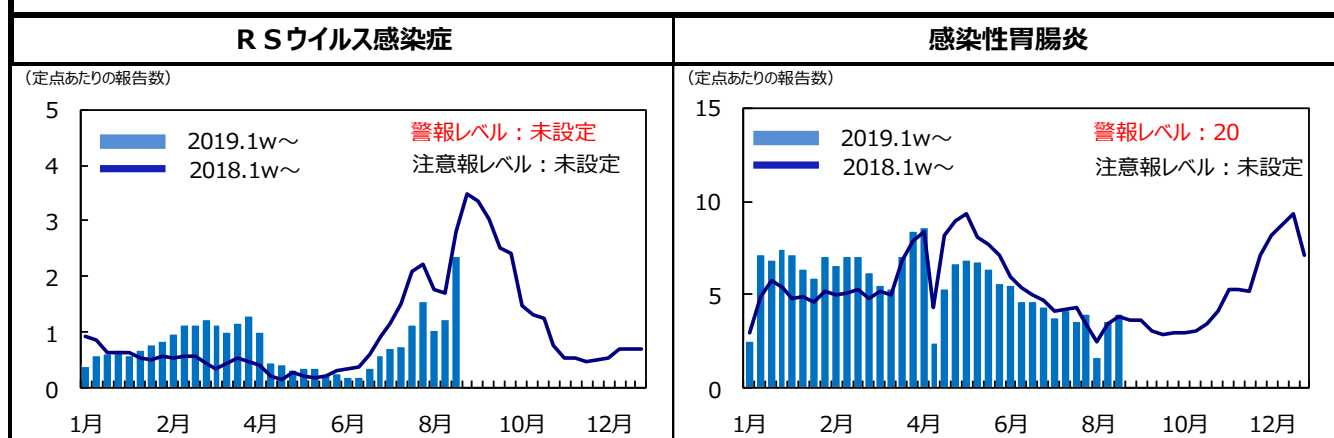


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2019年 第35週8月26日～9月1日）

第35週の順位	第34週の順位	感染症	2019年 第35週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2018年 第35週の 定点あたり 報告数	2019年第35週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.01	13%増	3.86	1歳_16%
2	2	RSウイルス感染症	2.37	91%増	2.79	1歳_45%
3	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	46%増	1.33	5歳_14%
4	3	手足口病	1.45	31%増	0.83	1歳_33%
5	5	ヘルパンギーナ	0.96	26%増	1.34	1歳_24%

# 第35週のコメント

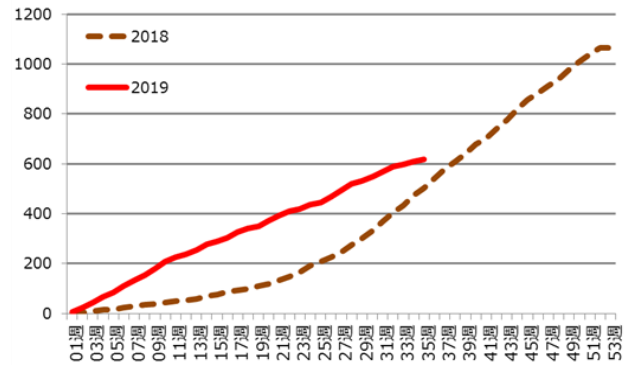
～百日咳～ 生後3か月からの予防接種が重要

## 全数把握感染症

### 百日咳

百日咳は、百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) による急性の気道感染症である。潜伏期は通常5～10日で、かぜ様症状で始まり（カタル期）、百日咳特有の咳が出始める（痙咳期）。新生児や乳児早期では、肺炎、脳症を合併することがある。マクロライド系抗菌薬が有効であるが、近年、薬剤耐性菌も報告されている。百日咳の予防には、ワクチン接種が有効であり、乳幼児期に計4回接種されている。2018年1月1日に小児科定点把握感染症から全数把握感染症に変更され、成人の報告数の把握が進んでいる。

(累積報告数)



[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[百日咳とは\(国立感染症研究所\)](#)

表 2. 大阪府全数報告数 (2019年 第35週8月26日～9月1日)

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります  
(報告があった疾患のみ記載しています)

疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症										
細菌性赤痢 ( <i>S. sonnei</i> )	1							1		5
腸管出血性大腸菌感染症	6	2		1		1	1		1	126
4類感染症										
デング熱	2			1		1				34
レジオネラ症 (肺炎型)	4							2	2	75
5類感染症										
アメーバ赤痢	2	1							1	51
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4	1			1		1		1	128
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1								1	40
水痘 (入院例)	1								1	16
梅毒	11	1			1			1	8	710
百日咳	11							3	8	619
風しん	1								1	126

結核 (2019年7月分) 結核 新登録患者数：146名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 57名)  
(府内累積報告数 984名、内 肺・喀痰塗抹陽性 380名)

(2019年9月3日 集計分)